家庭教育ニュースレター
家族の絆
2008年 夏
Vol.34
発行／西宮市教育委員会
問合せ先／社会教育グループ TEL 0798-35-3866
URL http://www.nishi.or.jp/homepage/katei/

お母さん、お父さん、あなたの場合は大丈夫？

講師:仲野（なかの）　好重（よしえ）

プロフィール …… 仲野　好重

1985年 聖心女子大学文学部卒業（心理学専攻）、その後渡米。1992年 米国セントルイス大学大学院より心理学における哲学博士号Ph.D.取得。研究テーマは「親子関係における機能的分析の日米比較」。2000年　大手前大学現代社会学部教授、現在に至る。尼崎市教育委員長、西宮市家庭教育振興市民会議委員など幅広く活躍されています。特技はタップダンス、バーテンティング、人々を楽しませること。

◆はじめに◆

本日の講演のタイトル**「お母さん、お父さん、あなたの場合は大丈夫？」**、一体何を大丈夫だろうと言ってるんでしょうかと、皆さん内心、色々想像されていることと思います。いろんな意味をこのタイトルには含ませております。要するに**子育て全般**に関して親として大丈夫ですか？　子どもの心が十二分に分かっていますか？　つかもうとなさっていますか？　ということから始まり、子どもが発達・成長していくプロセスも良く把握されていますか？　またやがては、子どもは親元を離れてまいります。**自立**という方向に進んで行ってもらわなければなりません。この自立ということを一つの目標においたときに、その方向に向かってお父さん、お母さん後押しをなさっていますか？　大丈夫ですかということまで含めています。非常に幅広い意味で述べておりますので、一つ一つの内容について心の中でご確認ください。

◆子育ての目標◆

まず皆さんとご一緒に考えたいのは、**「子育ての目標」**とは何なんでしょうか。また何をゴールにおいて子育てするのでしょうか。「子育ての目標」について、皆さんが真剣に考えられる機会は少ないと思います。私自身は、次のように考えるんですね。子育ての目標・目的は沢山ありますけれど、まず家庭教育で頭の中に留めておいていただきたいことは、子ども一人一人が社会に出ていったときに、自分の足でしっかり立って、自分の人生、即ち大きな可能性を持った人生を謳歌（おうか）し、明るく、楽しく生きていってもらいたい。そのためにも子どもに基礎的な力を身につけてもらって、社会に送りだすということが大きな子育ての目標・目的の一つと思います。こうなりますと、幅広く教育の目標とも根底で一致しているんだと思います。要するに、その子どもが一人一人、自分の足で立って社会に出てくれること。これを心理学では**「社会性」**といいます。社会性をしっかりと身につけて、社会に出て行ってもらいたい。これが、子育ての大きな目標・目的の一つです。

◆人間としての個は出生から◆

子育ては実際手のかかることです。子どもの人**間としての「個」**の人生は、臍（へそ）の緒（お）のとれた出生から始まります。しかし、子どもたちは非常に手がかかります。１歳から１歳６ヵ月位までは片時も目を離せない状態が継続します。本当に、子どもと密着した形で子どもを育てなければなりません。ですから子どもが使う手段は泣くということです。子どもは泣いてサインを発します。母親も大したものですね。泣き方一つで子どもが何を言っているのか、徐々に熟知してきます。母親と子どもの間には「阿吽（あうん）の呼吸」でのコミュニケーションが生まれてきて、子どもは親から適切な対処をもらえるのです。一方、適切な対処がもらえなかった子どもはどうなるのでしょうか。泣けど叫べど、親はやってこないとなると、やがて子どもは疲れて俗にいう「泣き寝入り」を起こしてしまいます。このような状態が何回も続けば、子どもの心の中に**「諦（あきら）め」**という感情が芽生えてきます。例えば、３時間ごとにしか子どものところには行かないと決めても子どもは３時間ごとに泣きませんし、子どものペースで大人は動いていません。大人は自分のペースで動いているのです。

子どもが求めるときと大人が実際に行動するときとにずれが生じてくると、子どもに諦め感を与えることになります。逆に、泣いたらすぐ飛んで来てくれる…実はこのような関係は非常に大事なものなのです。生後１年から１年半の間このような関わりが、ずっと続きます。子どもはこのような関（かか）わりを通じて**「愛着」**というものを形成していくのです。この愛着という言葉は私たちが日常的に使う言葉に言い換えれば**「絆（きずな）」**という言葉になり、学術的表現になれば**「基本的信頼」**という言葉になります。人間してこの世の中に生まれ

てきて、自分を取り巻く大人たちを信じていいんだ、頼っていいんだ、困ったときには助けてくれるんだというこのような全体的な安心感・大きな信頼感はいつ身につくかといえば、生まれてから１年から１年半で身につくのです。

◆ホスピタリズム◆

一方身につかなければどうかといえば、次のような例があります。第１次世界大戦後、イギリスでは沢山の戦災孤児が発生しました。多くの子どもたちが今でいう乳児院に入れられました。その施設で世話をする保母さんのような先生方は人数不足で、１人で50人、100人見なくてはならないような場合があったそうです。ではどうなるかといえば、子どもはあっちでも泣き、こっちでも泣くのですが、保育する人間が人数不足、このような場合人間として合理的な対処の仕方は、端から順番に世話をしていくことです。しかしながら、この様に端から順番に世話をしていくと、順番が早い子どもはいいですが、遅い子どもはいつも遅くなるということになります。子どもたちは待たされている間は泣き叫びます。しかし、順番どおりに世話を実施するとします。子どもたちはどうなると思いますか。やがては、泣き疲れて寝てしまいます。そのようなことが、１～２ヶ月続くと２～３ヶ月後には次のような症状がでてきます。ポカーンとして無表情になったり、空(くう)をじっと見ていたり、自分の手を見つめていたり、ときには自分の頭を壁に打ちつけたりします。また非常に神経質な表情になったりという風に、明らかに異変が起きてきます。イギリスで起きたこの症状を**「施設病」、ホスピタリズム**と言います。施設で保母さんや、お母さん的役割りの人が不足したとき、子どもたちは十分に面倒を看てもらえない結果、どうなっていったかと言うと、先に述べたように「愛着」・「基本的信頼」を身につけずに育っていかなければならない子どもたちを生んでしまったのです。この時代から愛着形成の研究が始まり、イギリス、アメリカ、日本へと広まりました。

愛着形成の基礎をどこでつくっているかというと、それは家庭です。先ほども述べましたが、１歳から１歳半までの間の親と子どもの関わりが重要なのです。次に、２歳から４歳ぐらいまでの間はどういうことが大事かといえば、今度は世の中を探求する、即ち、探索心、冒険心が出てきます。これはダメ、あれもダメというふうに課すると、子どもに冒険心・探索心が育たなくなります。身に危険がせまっているような場合を除き、ある程度の場合は自由にさせ、冒険心・探究心を育てていくべきです。そうしないと、**「自立性」**・**「自主性」**に影響を与えます。実は冒険心等を育てていかないと、これらを阻止するのです。自立や自主はどのように育っていくのでしょうか。自分が興味を持ったことに主体的に動かないと育たないのです。受身では育たないんです。即ち、自分自身が興味を持ったことに主体的に動いていいんだよという環境設定をしてやることが大事なのです。

今度は４歳以上小学校に上がるまでの子どもにはちょっと**「社会性」**を身につけてもらわないといけません。ですから、ここに幼稚園教育が入ってきます。幼稚園での教育は非常に大事な時期です。それまでは家庭などの狭い範囲の中で冒険心・探究心を身につけさせ、今度は社会にデビューするのです。それが、保育園だったり、幼稚園だったりするのです。必ず、自分と同世代の**「仲間」**との関わりを訓練されるのです。人を見てどういうタイプか、またどういう性格かを瞬時に判断して、その友達との対処の仕方を試行錯誤を繰り返しながら覚えるのです。いわゆる、社会の縮図の訓練です。

学童期になると、例えば漢字テストなどにより、評価されるようになってきます。努力をしないと次の段階へ行けないことも分かってきます。この学童期に、しっかり生活習慣を身につけ、勉学に関していえば、コツコツ努力する勤勉性が問われるのです。即ち、小学生のときに、子どもたちが抱えている社会性に繋(つな)がる発展の課題は**「勤勉性」**なのです。

そして、小学校５～６年生頃には思春期に入り、親とは口をきかなくなります。また反抗期がないのは自慢にならないのです。何故ならば、我々親の立場である人間は、子どもにとっての**「壁」**にならなければいけないのです。壁というのは、乗り越えてもらうべき存在です。子どもにとって、一番最初に壁・ハードルになるものは親です。ですから、必ず親は子どもにルールを与えます。例えば、この様なことはしてはいけないとか…　親はルールを説明しなければならないのです。このルールを設定するということは社会に出たときの訓練です。

◆友達親子◆

最近の傾向として、**「友達親子」**が増えています。何でもオープンに言い合える様な関係、この様な関係を決して否定するものではありませんが、私は危惧することがあります。親に言えない部分を持っている、親も子どもに絶対譲れないものを持っている、そういう世界を本来は持っているべきだと思います。子どもも成長していく過程で、親に言えない世界を持ってきます。子どものことの全てを知っているというのは本当の意味での親子関係ではありません。親も同様です。大人同士の会話の中に、「ねえ！ママ」と言ったりして、子どもが割り込んできたりします。その際、「何？」と言って聞く母親がいますが、この様な対処は大変困るんです。この様な場合は、「ちょっと待ちなさい。今、大人同士で話し合っているでしょう」と

言っていただきたいのです。何故ならば、子どもには足の踏み入れられない大人の世界があるというルールを教えたいのです。成長するに従って、いずれ大人の世界に入って来れるという余地を残しておいて欲しいのです。

◆アダルトチルドレン◆

例えば、家庭内で色々な問題が発生した際、家族の意見をもらうのはいいですが、結論を子どもに決めさせるようなことをすれば、子どもが子ども時代を生きれないのです。子どもが、親のカウンセラーになってしまうのです。これを**「アダルトチルドレン」**と言います。子どもの頃に、大人の世界に足を踏み入れていると、子ども時代に満たされなかったものをゆがんだ形で取り戻そうとします。具体例をあげれば、私は、ある人から、大人になって、心の中に何か満たされないものがあるという相談を受けました。その人との雑談の中から父母の不仲、お父さんは強いタイプだとわかりました。お母さんはお父さんがいるときは良妻賢母を装うが、いないときは娘に不満を言う。小学校の低学年の頃から母親にどう思うと相談されてきました。自分に相談しないで、お父さんに直接言えばいいのにというように、非常に複雑な気持ちの中で育ってきました。彼女は、19、20才で早く結婚して家を出たいと思っていました。結婚し、世間から言えば幸せな家庭を築いていると思われますが、彼女は、「30何年間、心の中に何かやり残してきたことがあるという思いにかられる」と言います。私は、子ども時代を大人のような立場で生きてきた、まさしく、アダルトチルドレンではないかと思いました。そこで、私は、その人に、ディズニーランドに行ったことがありますか？一度行きなさいと言いました。50才のおばさんがと思われるかもしれませんが、だまされたと思って行きなさいと。その後、テニスサークルのおばさん達で行かれました。その人は、生まれ変わったみたい、楽しかったと言われました。門限もお小遣いも心配ない…　その後、ディズニーランドに５回も行かれて、**「納得しました」**と述べられました。言い換えれば、自分の人生をジグソーパズルに例えたら、どこを探しても、はめ込むピースがない、全く欠落してしまっているのです。この様に、長年にわたり引きずった事例があるのです。今まで述べてきたお話に戻りますと、各時期に大切なテーマがあって大人になっていくのだということです。まずこのことを各家庭でしっかり、認識して欲しいのです。そして、子どもに考えさせ、親を乗り越える知恵・力を持たせるよう育てていくことが大切なのです。家庭教育が重要性なことも良くおわかりになられたと思います。

◆賢い子ども◆

賢い子に育てたいと思われますが、賢さには２種類あります。一つは、**「ＩＱ的賢さ」**（知能指数）であり、もう一つは**「ＥＱ的賢さ」**です。ＩＱは、時間内にどのくらい処理出来るか等のいわゆるコンピュータ的な頭脳です。一方のＥＱは、この世の中をよりよく生きていくための賢さのことで、10年程前、アメリカの心理学者のゴールドマンが発表しました。ＥＱとは情操指数・感情指数と訳せます。要するに、人の心を読む力を持っていることです。多元的な価値観が存在し、複雑な人間関係の渦巻いている現代社会に、いかに人間関係における賢さを発揮して、自分の能力や可能性を十二分に活かしながら生きていくには、どうしたらいいか。この能力は、ＩＱでは計れません。これらのＩＱでは計れない諸々の能力のことをゴールドマンはＥＱと呼んだのです。もっと端的に説明すれば、「自分の気持ちをしっかりと自覚し、コントロールできる人」、そのような人をＥＱの高い人と言えるそうです。この逆がキレルということです。キレない自分でいることの工夫、これはＩＱテストでは計れません。また次のようにも言えます。「同時に、他者の気持ちを察して、その感情に適切に対応していく人」これもＥＱの高い人です。思いどおりにいかなくて落ち込んだとき、逆境から抜け出す力、この世の中を生き延びる力、それらがＥＱです。このＥＱは家庭教育の中で、重視していってください。

◆ＥＱを育てる◆

ＥＱはＩＱの対語としての概念です。ＩＱでは計れない諸々の能力を大切にしていこうということです。多分、皆さんの多くの方も賛同いただけると思います。では、どの様に育てていったらいいのでしょうか。ＥＱというのは、言ってみれば社会性を身につける力です。これは運命ではないのです。また遺伝子によるものでもないのです。それは**「訓練」**です。**「練習」**です。**「教育」**です。ですから、誰でも身につけることができます。しかし、次のように言われています、健全な家庭教育の中にいない子どもはＥＱが低いと。親の背中を見て子は育つといいます。子どもは、放っておいても模倣をします。

アメリカの有名な心理学者である**バンデューラ**という人が**「社会学習説」**を発表しました。要約すれば、子どもに、こんなことをしてはいけないと、いくら口で禁止してもダメです。子ども達が一番影響を受けるのは、面前で目を引くような状況が繰り広げられることです。従って、子どもの前でしてはいけないことを大人は絶対してはいけないのです。してはいけないと口で言っていても、もし親がしたなら、してもいいんだと思って、親の前ではしなくても外でしてしまいます。子ども達が一番混乱するのは、言っていることと、していることが違うときです。大人の場合は「本音」と「建前」があることを認識していますが、４歳の子

どもはそんなこと理解できません。子ども達は、つじつまの合わないことは大嫌いなのです。几帳面につじつま合わせをします。学校の先生、幼稚園の先生がよく言われます。一回注意して、ルールを決めた場合、子ども達はルールに基づいて行動します。従って、ルールを変えるときは納得するように十分説明するのです。

子どもは、２歳半から３歳位でものの善悪の判断・感覚が身につきます。もし、３歳半か４歳位の子どもが悪いことをしているときは、善悪を承知のうえ、わざと行っているのです。分かっていないケースというのはレアケースだと思います。何故、わざとするのかと言いますと、それは気を引くため、目立ちたいためです。子ども達がしていることは、常に意味を持っています。その意味を私達、大人がどれだけ汲み取っていくかが大事なのです。頭ごなしに、ダメなものはダメと宣言しなければならない場合もありますし、逆に、理由をつけて説明しなければならない場合もあるのです。その場合は説明してください。それから、子ども達の中で物凄く敏感なことはもう一つ**「平等性」**です。皆、平等に扱っていないと非常に感じています。私達大人の社会で、大事だと言っている規範、例えば「合理性」、「理屈」、「平等性」などは、子ども達の方が返ってきちっと守ります。ですから、子ども達に対し、いい加減なことができないのです。先述したこととリンクさせれば、**「ＥＱの低い親に育てられた子は、ＥＱが低くなる」**ということです。具体的に言えば、社会のルールを軽んじる親からは、社会のルールを重んじる子は育ちにくいし、人に対する優しさを持っていない親からは、優しさを持った子どもは育ちにくいということです。

◆一番困る親とは◆

一番困る親はメディアの情報、雑誌・本の情報に振り回される親です。私にも相談があるのですが、「私の子どもは、育児書に書いてある発達段階のうち、できないことがあるのです、これは異常ですか？」と……私は、「**個人差**という言葉を知っておられますか」と聞くのです。人間は、何が素晴らしいかと言えば、それは個人差があるからです。皆違うからおもしろいのです。皆違うので、仕事においてバランスが取りにくいと思われますが、別の観点から見れば、違うからこそ**「適材適所」**の発想が存在し、皆が集合すればチームワークができるのです。

◆パラサイトシングル◆

それから、子どもに手や口を出さないと我慢できない親がいます。先先（さきさき）を読んで子どもの範囲を狭めてしまう。これでは、子どもの探究心は育ちません。この様な親に限って、次のように言うんです。「お母さんの言うとおりにしていれば間違いない」と言う。それは大きな間違いです。この様な気持ちで子育てをすると、自分の目の届く範囲だけに子どもを置いておきたくなるのです。そうされた子どもが20年、30年経過すればどうなるのでしょう。**「パラサイトシングル」**（親に寄生し、独身を楽しむ）になるのです。言い換えれば、その子どもが社会に出て壁に出会った場合、必ず自分の所に戻ってくるように育てているのです。自立を促す育て方をしていれば、社会に出て色々な障害・抵抗に出会っても乗り越えていきます。逆に抵抗なしに、野放しで、好き放題に育ったならば、本当の抵抗に遭遇した場合、戦えなくて、尻尾（しっぽ）を丸めて帰って来ます。

それからもう一つ困るのは、**子どもに無関心な親**です。逆に子どもは、親に関心を持ってもらおうと躍起になります。まず、良いことをして、例えば勉強をよくする。言われることを良く聞く等です。それでも注目してもらえないと、今度は逆に悪いことをするのです。一体、子どもたちは、何を求めているのかと端的に言えば、いつも見ていて欲しいということです。自分の存在を受けとめて欲しいのです。ただし、親は逆に、見ているけど見て見ぬふりをしたり、知っているんだけど知らんふりして、今の時点では自分で立ち向かいなさいという時もあります。この判断・サジ加減が親としていかに成熟していくかということに繋（つな）がっていくのです。親としての歴史は子どもを授かったときに始まり、子どもとしての歴史は出生により始まります。即ち、親と子のキャリアは同じなのです。子は親によって育ち、成長していく。親は子によって育ち、成長していく。これが、**「親子関係」**というものです。

◆まとめ◆

ＥＱを身につけた子どもに育てたいなら、親でいる我々も、常に今もＥＱや社会性を磨き続けなければなりません。最近、学校に何でもおまかせする風潮がありますね。大学生の両親が学校に来て、子どもが朝早く起きないので先生から言ってもらえればとお願いされるのです。そこで、私は学校をどういうところだと思われているのですかと聞くと「人間形成の場」だと言われます。しかし、学校は勉学がメインで、勉強を通じての「人間形成の場」なのです。「しつけ」、「生活習慣」などは家で行うべきもの。即ち、「家庭教育」の場なのです。今までの話を聞かれていて、皆さんご理解いただけたと思いますが、「家庭教育が人間形成の基本」なのです。ＩＱがいくら高くても、人間関係がだめなら何の役にも立たないでしょう。「生きる力」をまず身につけるところは家庭です。親とのやり取りや手本の中からです。勿論、親も失敗します。失敗したらやり直せばいいのです。この様な努力の積み重ねでお互いが尊重できる親子関係となるのです。

平成 20 年度（2008 年度）第 10 回 **家族の絆**

フォトコンテスト

テーマ「家族だよ　全員集合！」

～最近、家族写真を撮っていますか？
この機会に、ほのぼのした家族の写真を撮ってみませんか～

募　集　期　間

平成２０年７月２２日(火)～平成２０年９月１９日(金)
当日消印有効

応　募　資　格　どなたでも（一般、ジュニアの別はありません）

応　募　の　き　ま　り

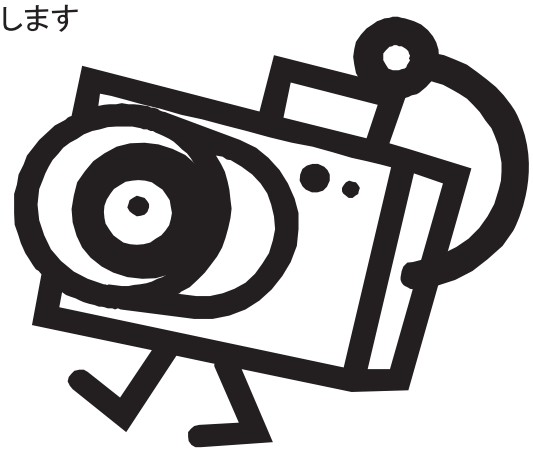
◇応募者本人が撮影した未発表作品に限る
◇家族全員（撮影者を除く場合も可）を撮影した作品
◇被写体となった本人等の承諾を得られた作品に限る
◇カラー、白黒いずれも可。組み写真は不可
◇キャビネ～4ツ切ワイドサイズのプリント、デジタル写真は A4サイズ
◇応募点数は1人3点以内（入賞は1人1点）
◇応募作品ごと、その裏面に応募票を貼付
◇入賞した際、ネガ（デジタルの場合はデータ）を提出できる作品に限る

作品の取り扱いと審査等について

◇応募作品に関する著作権等は主催者に帰属します
◇応募作品は返却いたしません（落選作品についても家庭教育関係の出版物やホームページ等に紹介させていただく場合があります）
◇西宮市家庭教育振興市民会議で作品を審査、選考します
◇フォトコンテストの結果は10月中旬頃、応募者に通知いたします

入　　賞

特選（ 1点）　図書券（3万円相当分）
入選（ 4点）　図書券（5千円相当分）
佳作（10 点）　図書券（1千円相当分）



応　募　先

〒662-8567
西宮市六湛寺町 8 番 26 号
社会教育グループ　TEL(0798)35-3868
Eメール：vo_k_shakyo@nishi.or.jp
http://www.nishi.or.jp/homepage/katei/

主　　催

西宮市家庭教育振興市民会議「こころのふれあいひろば実行委員会」
西宮市教育委員会

フォトコンテスト巡回展示のご案内

昨年度入賞作品を下記の日程で巡回展示します。

☆鳴尾図書館
平成20年7月15日（火）～8月3日（日）　TEL 0798－45－5003
開催時間：火～金 10:00～19:00　土・日・祝 10:00～18:00
月曜日と7月22日（火）は休館

☆北部図書館
平成20年8月5日（火）～8月17日（日）　TEL 0797－61－1706
開催時間：火～日 10:00～18:00　月曜日と8月7日（木）は休館

☆北口図書館
平成20年8月19日（火）～8月31日（日）　TEL 0798－69－3151
開催時間：火～金 10:00～20:00
土・日 10:00～18:00　月曜日は休館

☆子育て総合センター
平成20年9月1日（月）～9月19日（金）　TEL 0798－39－1521
開催時間：月～金　9:00～16:30　　土・日・祝 9:00～16:30

＊ホームページでも公開していますのでご覧ください。
URL http://www.nishi.or.jp/homepage/katei/

昨年度入賞作品

テーマ「家族の絆～わたしの宝物～」

〔一般の部〕特選 「パパの背中に」
（北野 昭さんの作品）

家族にとって何が一番大切か

あなたの子育てをする環境はいかがでしょうか？

子育てをひとりで悩んだりしないで、身近に相談できる家族や仲間と話し、思いを共有することができればいいですね。今回のフォトコンテストのテーマは「家族だよ 全員集合！」です。この取組みが、家族や仲間と団らんするきっかけになることを願っています。

また、地域、学校、行政が協力して取り組める方策の研究や家庭の教育力の充実を支援する活動に取り組んでいただいています「西宮市家庭教育振興市民会議」を代表して黒木委員に「家族にとって何が一番大切か」をテーマに～「子どもっておもしろいな」と思える日～　と　～「子どもの心の安らぐ場所」～　のお話をいただきました。

西宮市家庭教育振興市民会議 議長　黒木　順子

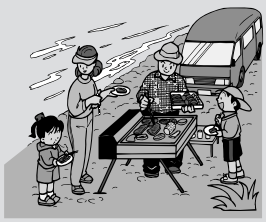
「子どもっておもしろいな」と思える日

今年の春、息子が大学生になりましたが、私自身の子育ては、迷いの連続でした。本を読み、先輩お母さんの話を聞き、ああでもないこうでもないと迷ってばかりいました。まわりからのプレッシャーもあり、ちゃんと育てなきゃと自分自身を追い込んでいました。子育てに、自信がなかったのでしょうね。それが、同じような価値観を持った仲良しファミリーが出来たことで、段々と落ち着いてきました。同じような年齢の子どもを持つ五つの家族が、季節の行事を一緒にしたり、バーベキューをしたりと楽しい時間を共有し、また助け合いました。一人っ子の息子にとっては、お姉ちゃんやお兄ちゃんそして弟や妹がいるような環境でした。そしてその中で、息子も私もずいぶんいろいろな事を学びました。子どもも十人十色、親も十人十色。それぞれ、得意なことや苦手なことがあって、お互い助け合える、と。

子育ては、一人で出来るものではないと思います。さまざまな経験や体験が、人を成長させます。

楽しいことばかりでなく、時には悲しいことや辛いこともありますが、親が、周りの人と関わる姿を間近に見ることができる子どもは、とても貴重な経験を重ねているのではないでしょうか。

お母さん、お父さんが仲間を作り、子育てを楽しんでください。私自身、仲間をつくり子育てが楽しめるようになると「子どもっておもしろいな」と思えるようになりました。



子育ては、親育てといいます。子育ての中で多くの人と関わることで、人として気づくことも多いのではないかと思います。

「子どもの心の安らぐ場所」

「親の背をみて子は育つ」という言葉がありますが、皆さんはどのような、解釈をされていますか。普通、親が真面目に生きていれば、その後姿を見て子どもも真面目に生きていく、みたいな感じですよね。しかし解剖学者であり、「バカの壁」の著者でもある養老猛司氏が「みんなそういう風に思っているでしょう。でも違うんですよね。親が自分自身でも気づかない、また見えていない自分の姿を、子どもは見ているということなんです。だから、どうしてこんなことするんだろうとか、誰に似たんだろうってことは、結局親の本質みたいなものを子どもが感じとっているということなのです。」とおっしゃっていました。子どもは感じる力が強いのだと思います。

その一方で、親は子どもの育ちに大切なものを与えているんですね。

幼いころに弟や妹が生まれるとわざと悪いことして、親の気を引こうとしますよね。怒られてもいいから親にかまって欲しい。親や身近な大人にかまってもらいたい。本気で、自分のことを心配して、叱って欲しい。愛情欠乏症なのです。愛情欠乏症で学校や社会で問題を起こしてしまう子どももいます。

小さい時から、子どもの気持ちをしっかり受け止めていれば、子どもの気持ちは安定します。自分の頼るべき、心の基地を持たせてあげてください。

子どもにとっても、私たち親にとっても、家庭は心の安らぎを与える場所でありたいですね。

西宮市立郷土資料館の催し
西宮市立郷土資料館第24回特別展示
「西宮の寺院縁起」

日時：７月19日（土）～８月31日（日）（※月曜日休館）
　　10:00～17:00（入館は16:30まで）
会場：西宮市立郷土資料館常設展示室
展示内容：西宮市内には個性豊かな寺院が多数あります。しかし、個々の寺院の創建や伝承については、これまであまり知られていなかったように思います。そこで今回の展示では、市内の寺院のうち江戸時代以前に開基したという伝承をもつ寺院について縁起類や寺記、その他寺院の伝承に関わる資料を借用して展示します。

展示資料の「善恵上人伝絵（県指定文化財）」は、生瀬にある浄橋寺を開基した善恵（1177～1247）の生涯を描いた絵巻です。善恵は浄土宗の一派西山派をたてた人物で、71歳で入滅するまで多数の寺塔を建立しました。この絵巻は、実導上人が善恵の140回忌（至徳３年1386）にあたってあらわした文を23段の詞書にして、各段の間に22段の伝記絵を配して、巻子６巻に仕立てたものです。浄橋寺に伝わっているのは、これを享禄４年（1531）に転写してできあがった絵巻です。絵師ははっきりわかりませんが、詞書は三条西実隆による筆跡と伝えられていて、浄橋寺のことは第３巻と第４巻に記されています。

このほか、甲山にある神呪寺の縁起絵巻、船坂にある善照寺の縁起、六湛寺（現市役所）の開基である虎関師錬の画像、永福寺（下大市）の高野四社明神画像など約50点の資料を展示します。

問合せ／西宮市立郷土資料館
　TEL 0798-33-1298
　〒662-0944 川添町15-26

兵庫栄養調理製菓専門学校公開講座
「食と健康セミナー」
（7月･9月開催分）

日程及びテーマ：
　①７月25日（金）「夏バテを防止する食事について」
　②９月19日（金）「活性酸素をやっつけよう！」
講　師：いずれも元栄養士科教授 管理栄養士 佐々木　勉
時　間：いずれも10:00～11:30
会　場：いずれも兵庫栄養調理製菓専門学校講義室
定　員：各回50名（先着順）　　受講料：無料
申込方法等：詳細は下記に問合せてください。
申込･問合せ先：兵庫栄養調理製菓専門学校 公開講座事務局
　〒662-0833 西宮市北昭和町９番32号
　TEL 0798-66-1981　FAX 0798-64-3928

西宮カウンセリング研究会
一人で悩まずに！
西宮カウンセリング研究会へどうぞ
～心の相談室～

西宮カウンセリング研究会は昭和40（1965）年に中央公民館で開かれた、カウンセリング基本講座で勉強した者が学習したことをお役に立てたいと思って生まれた会です。カウンセリングとは、「困ったとき」「悩んでいるとき」（自分自身・家族・子供・職場・近隣などで）その人のお話し相手となり、ご一緒に考えることです。カウンセリングを受けるとその人の中にある考えが整理出来、解決や決断を見つけられる一助となります。身体の病気でも予防や早期発見・早期治療の叫ばれている今日「こんなつまらないこと」などとためらわずお出かけになってみませんか？

当会の活動は①悩みの相談　②高齢者ホームへのトークボランティア活動　③グループ員の間での問題解決の為の自助活動　④カウンセリングの基礎学習などを行っております。また、基礎的な勉強に興味のある方には勉強機関の紹介も致しております。

①の「悩みの相談」に関しては
　☆費用：無料。ご相談に関しては秘密を厳守いたします。
　☆利用方法：下記へお電話、又は直接おいでください。

とき	ところ	連絡受付者電話番号
第１、３、４月曜 13:00～16:00	プレラ西宮内　中央公民館４Ｆ （西宮高松町４－８）	八木　さゆり 0798－72－8456
火曜 13:00～15:00	社会福祉会館４Ｆ （西宮津門川２－28）	中村　紀子 0798－33－6640
火曜 13:00～16:00	甲東公民館２Ｆ　第二集会室 （西宮市上甲東園２－11－60）	涌嶋　嫩 0798－51－5171

顧問：平井クリニック院長・精神科医 平井孝男医師
スーパーバイザー：十三カウンセリングルーム所長 酒林康雄氏

アサヒビール西宮工場
夏休み親子見学ツアー

今回の実施内容は環境問題をテーマにした特別工場見学イベントです。
期間：７月26日（土）～８月31日（日）（※8/5（火）は休）
　　１日２回実施　①10:00～11:40と②13:30～14:40
　　※ただし、日によって変更になる場合あり
会場：アサヒビール西宮工場ゲストハウス
対象：①の時間は小学２年生までの方とその保護者
　　②の時間は小学３年生以上の方とその保護者
費用：無料　　定員：各回50名（※先着順）
申込：電話にて要予約
問合せ：アサヒビール西宮工場
　TEL 0798－36－9595
　〒663-8241 西宮市津門大塚町11－52

社団法人 西宮市手をつなぐ育成会主催
オープンセミナー ～『ともに育ち、ともに生きる』～（9月・11月・1月開催分）

この西宮の地域で子どもを育て暮らしていく中で、発達やコミュニケーションに戸惑ったり、病院等に行くことに大変さを感じたり、また日々、起こる子どもとのトラブル…　その解決の一助となればいう観点から企画しました。

日程及びテーマ：

①９月18日（木）「あたりまえの治療をあたりまえに」
　講師：村内歯科医院院長　村内　光一歯科医師

②11月20日（木）「てんかん　あれこれ」
　講師：しらさかクリニック院長　白坂　幸義医師

③21年１月20日（火）「社会に出るために今できること」
　講師：北摂杉の子会常務理事・統括施設長 松上 利男氏

時間：いずれも10:00～12:00

会場：いずれも西宮市総合福祉センター（染殿町8-17　TEL 0798-33-5501）

対象：不問　　定員：各回40名

受講料：無料　　その他：託児有り

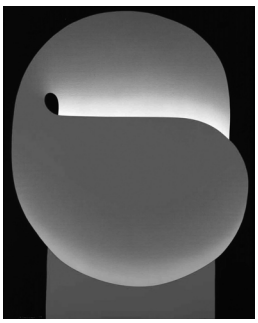
申込方法等：１回のみの参加も可。詳細はＦＡＸにて下記に問合せてください。

申込・問合せ先：育成会第２事務所　FAX 0798-33-7713

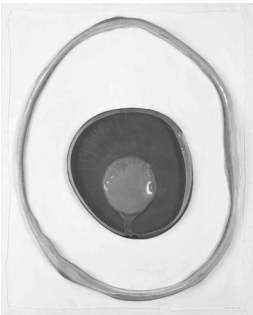
西宮市大谷記念美術館

「現代美術の冒険」&「２００８イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

現代美術の冒険



元永定正「赤いQ001」1974年



松谷武判「作品66 生命」1966年

会期：７月12日（土）から８月３日（日）まで
（休館日：水曜日）※無料開館日７月21日（月・祝）

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）

開催趣旨：「現代美術」という言葉は1960年代に広く用いられるようになりました。その背景には、ただ抽象的であるだけでなく、それまでの絵画や彫刻の枠組みではとらえきれない表現が数多く生み出されてきた状況が挙げられます…　本展では元永定正（もとながさだまさ）、白髪一雄（しらがかずお）、松谷武判（まつたにたけさだ）、植松奎治（うえまつけいじ）など18作家の約30点を展示すると共に常設展示室では、大正から昭和にかけて描かれた静物画を取り上げ、小出楢重（こいでならしげ）、梅原龍三郎（うめはらりゅうざぶろう）、伊藤慶之助（いとうけいのすけ）、河野通紀（こうのみちただ）など12作家の約20点を展示します。

入館料：一般300円／高大生200円／小中生100円

※西宮市内在住の65歳以上の方は無料（要証明書）

※ココロンカード・のびのびパスポート呈示の小中生は無料

関連事業：

①７月21日（月・祝）の無料開館日当日の11:00と14:00からの２回、担当学芸員によるギャラリートークを開催

②８月３日（日）の12:30～／14:00～／15:30～の３回「第１回大谷茶会」開催
　入館料の他に別途500円要。なお、詳細は当館に問合せてください。

③７月12日（土）、19日（土）、26日（土）、８月２日（土）の各日の14:00から学芸員によるギャラリートークを開催

2008イタリア・ボローニャ国際絵本原画展

やまだまなみ「おばあちゃんの鼻毛」

うえのさちこ「好き」

ヴァレンティーナ・ラヴァニ「赤ずきんちゃん」

会期：８月23日（土）から９月28日（日）まで（休館日：水曜日）

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）
※毎金曜日は19:00まで開館（入館は18:30まで）

開催趣旨：1978年以来、当館で毎年開催している恒例の展覧会です。この展覧会は、イタリア北部の古都ボローニャ市で毎年開催されている、世界で唯一の子どもの本専門の国際見本市、ボローニャ児童図書展に併設された絵画原画のコンクール展入選作品で構成されています。本年は54ヶ国２,598名が応募、その中から日本人20名を含む23ヶ国99名の作家が入選しました。伝統的な技法から最新のＣＧを使ったものまで、様々に表現された原画を通じて、豊かな物語の世界を味わうことが出来ることでしょう。また特別展示では2007年にスロヴァキアで開催された「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」でグランプリを受賞したドイツのイラストレーター、アイナール・トゥルコゥスキィの原画を紹介いたします。

入館料：一般800円（600）／高大生600（400）円／小中生400（200）円
※（　）は前売・20名以上の団体料金
※西宮市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額（要証明書）
※ココロンカード・のびのびパスポート呈示の小中生は無料

関連事業：一時保育を実施する日があります。詳細は当館に問合せてください。

問合せ等／西宮市大谷記念美術館　〒662-0952 西宮市中浜町4－38　　TEL 0798-33-0164